

会議録：「平成30年度第2回恵那市産業振興ビジョン検討部会」

日時：平成30年11月20日（火曜日）10：00～

場所：恵那市役所会議棟中会議室

参加者：別紙参照

1. 開会

2. 前回検討部会のまとめ

事務局：「前回の検討部会では、ビジョンに基づき今年度実施している事業について進捗状況と行政目線での効果について意見をいただいた。『半分、青い』で多くの観光客が来訪したが、『事業者を取りまとめる組織（人）がない』、『他地域の情報がないため観光客に情報を伝えられない』。依然として恵那市の No.1 観光地は恵那峡であるにも関わらず『恵那峡のマップがない』。お客さんのデータが取れておらず、『マーケティングによるコンテンツ整備ができていない』。『案内機能の充実やキャッシュレス対応など外国人旅行者への対応が不十分』などの意見が出された。

これまでの意見を踏まえ、行政が考える必要な事業を整理した。今回の部会では、その事業内容について意見をいただきたい。事業の必要性だけでなく、不足する要素、他に必要な取り組みなどあれば提案してほしい。」

3. これまでの議論を踏まえた今後の取り組み

事務局：「これまでの実施事業の成果と課題を踏まえた今後実施すべき事業の提案（参考資料）」について説明。

4. 意見交換

「商業・観光部会の主な意見」

- ・産業振興施策の内容はこれでいい。具体的に進めていけばいいのでは。

【情報発信に関する意見】

- ・L1ラリーに30～40台の名車が集う展示会がある。根ノ上でも飲食等のバザー出店があるみたいだが、多くの人知らない。情報発信ができていない。
- ・情報の網の目のような連携ができていない。個々の活動で終わっている。
- ・夜の恵那峡や近隣の紅葉スポット等、もっと情報発信してほしい。
- ・誰が情報を取りまとめ、誰が情報発信するのか。そういった問題の解決が必要。
- ・今、恵那市で何が起きているのか分からないことが多い。市でやることは必ず地域など末端まで流すことを徹底すべき。事業をいくつもやることもいいが、まずは、情報発信に重点をおくべき。
- ・市で観光案内できるサイトを作ったらどうか。市は観光情報のコンテンツのみ整備して、あとは利用者が観光ルートなどをどんどんアップしていく。アップした方や口コミ件数の多い方などに景品を出すなど。
- ・観光ルートづくりも市民に参画してもらうことが重要。いろいろなセッションごと

で市民に関わってもらおうと、市民も関心を持って情報を拡散してくれる。市民をどう関わらせるかが重要。

- ・ 恵那市のHPがしょぼい。HP専門部署があった方がいいのではないか。もっと情報の感度を上げてほしい。
- ・ 高齢者はスマホを見ない。アナログな紙媒体も大切。
- ・ 市では、パンフレットやチラシ等たくさん発行されているが、ずっととっておきたいチラシ、捨てられないようなチラシの作製を心がけてほしい。
- ・ 「広報えな」は、大きなツール。全戸配布はすごくいい宣伝媒体。商業用の記事を入れてもらうなどもっと門戸を広げてほしい。中小企業者にとっては大きな支援となる。
- ・ 現在、新聞を取らない世帯が増加している。HPは高齢者はあまり見ないため、その間の層を埋めるためにも、広報えなを活用できるといい。
- ・ 広報えなの広告事業はアドループが窓口となって実施しているが、例えば、不公平のないよう地域などを分けて、順番に載せていけるような試みはできないものか。
- ・ Maika は、1 ページ 15 万円。
- ・ 中津川市の菓子まつりは、3 日間開催され、すごい集客と売上が出ている。遠方からの観光客も多い。恵那市にもメインとなるイベントを作っていくといい。
- ・ 全国的にみても恵那市よりも中津川市が有名。天気予報、交通、お菓子等、メディアや地図などにも中津川市が大きく取り上げられている。もっと、恵那市が取り上げられるようなことができないか？

【マーケティングに関する意見】

- ・ 2015 年が観光客数のピークだったという数字が上がっているが、その後の減少の理由など原因の分析等をしっかりとやる必要がある。
- ・ 観光協会等、調整する機関がうまく機能していない。そこで、DMOの推進が有効になるのでは。課題把握→分析→事業化。
- ・ 産業振興ビジョンを実施していく上でも、しっかりと分析とその分析結果を皆が情報として共有していくことが重要。

【商品開発に関する意見】

- ・ 商品開発をしたら、その販路を考えていくこともセットでやっていかなければいけない。
- ・ 商品開発等を進めることもいいが、ヒット商品は考えて簡単に出来上がるものでもない。事業に取り組んでいく中で出てくるものではないか。
- ・ E N A 若手イノベーター塾の実施があるが、塾と実践的な商品化は全く別物。ここでは若手の育成ととらえるべき。
- ・ 「麒麟が来る」の大河ドラマに向けて、明智光秀の勉強会や商品開発を進めていかなければいけない。
- ・ 明智光秀の生誕地が恵那市だと主張していくことが大切。
- ・ 恵那市の地域資源（ネタ）はたくさんある。L1ラリーもそのネタの一つ。ネタに絞って取り組んでいくことも大事。
- ・ 2019 年のラグビーワールドカップへの市としての取り組みを考えているのか。ラグビーは、試合の間隔が1週間ほどあり、サポーターはその間、日本で観光に飛び

回るらしい。その対応を考えてみてはどうか。

【市民の意識に関する意見】

- ・ 恵那市の観光のことを市民みんながもっとしっかりと認識していくことが大切。
- ・ アイデアを出しても予算がかかる。青森のねぶた祭りを見に行ったときに、地元の方々が誇りをもって自主的に活動していると感じた。
- ・ 地元で恵那峡を好きな人は少ないように思う。
- ・ 上から火をつけてもたくさんの燃料（予算）がかかる。時間がかかるかもしれないが下から火をつけることが重要。下から火をつけるというのは、子どもたちに郷土愛を育てるということ。教育の中で、長い目で育てていかなければいけない。子どもが大人になったときに、郷土愛が必ず生きてくる。郷土愛が自然と湧いてくる地域づくりを。

【恵那市の将来方針に関する意見】

- ・ リニアが来るが、都市開発、都市計画、道路計画、駅前計画等、将来の方針がよくわからない。そういった議論も必要であるし、そういった話の中で産業振興ビジョンも検討していく必要があるのではないか。
- ・ 計画は、①短期計画、②中・長期計画、③長期計画に分けて整理していく必要がある。目の前のこともやらなければいけないし、10年後も見据えなければいけない。

■まとめ

- 情報を誰が取りまとめ発信するか整備が必要
- 利用者が観光サイトの情報をアップする仕組み（アクセス多い人には景品）
- 市HPがしょぼい。専門部署を設けて感度の高い情報発信を。
- 広報に商業用スペースを確保できないか。
- 中津川の菓子祭りのようにメインとなるイベントが必要。
- 現状分析と事業への反映ができる仕組みが必要。
- 商品開発と販路確保を同時に進めることが重要。
- 教育の中で郷土愛を育む。市民の自主的な活動へつなげる。
- 恵那市として将来の方針を定め事業を考える必要がある。

5. その他

事務局：「観光に関するビジョンが必要。検討部会の中で観光ビジョンについても意見をいただきたいので随時会議を開催したいのでご協力を。」

6. 次回検討部会の開催について

事務局：「今回の部会をもって来年度の事業方針の概要は了承いただいた。これを産業振興会議に諮っていく。ビジョン全体としての次回検討部会は来年3月を予定している。」

7. 閉会